

海外短期留学奨学生制度が始まりました

－ フライブルク大学に留学して －

前号の特集では、「海外短期留学奨学生制度が始まりました」として、アメリカの大西洋岸のマサチューセッツ州にあるMassachusetts College of Pharmacy and Health Sciences (MCPHS大学) ボストン校およびウースター校への11名の学生たちの短期留学について紹介しました。本号では、同名のタイトルのもと、もう1つの短期留学先であるドイツ南部のフライブルク大学への留学をとりあげてみました。

すでに前号で記しましたように、MCPHS大学への留学生派遣は、本年度が初めてでしたが、ドイツについては、すでに2000年度以来、桑形広司准教授によって実施されていたものを位置づけなおしたものです。本年度は、21名の留学生が、桑形准教授のかつての留学先でもあるフライブルク大学へ送り出されました。なお、両大学への短期留学生派遣プログラムについては、前号を参照していただければ幸いです。

引率教員としては、ひきつづき桑形准教授があたり、またはじめての事務職員からの同行者として、学生課（国際交流推進室 兼務）の北田彩さんがドイツにわたりました。以下、これら引率職員2名と3名の留学生から報告記事をいただくことができました。寄稿していただいた方々にお礼を申し上げます。みなさんの記事を読ませていただくことにより、短期間ながら視野を大きく広げるきっかけともなった有意義な留学であったことが窺えます。来年度以降も、積極的な応募者を期待する次第です。

KPU_{NEWS}編集委員長 鈴木 栄樹

Feature article.

■ ドイツ語担当准教授、日本フライブルク・アルムニ会会員 桑形 広司

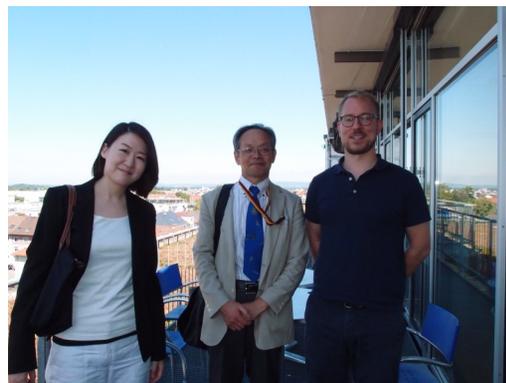
本年度もフライブルク大学主催の「日本人学生のためのサマープログラム」が8月5日から28日までのおよそ1ヶ月にわたり開催された。フライブルク大学はドイツ南西部のフライブルク市に位置し、1457年創立以来、数多くの優れた研究者、19人のノーベル賞受賞者を輩出する伝統校である。

2000年の初参加以来本年度で15回目を迎えたフライブルク大学の日本人向け特別コースであるが、一昨年度より本学の公認海外研修となり、一定の条件を満たした受講者には海外語学研修の単位が認定されるようになった。本年度から更に一歩進んで、参加者全員が大学より補助を受ける制度が確立した。フライブルク大学からも幾多の特典が受けられるコース参加者であるが、本学の場合、授業料と学生寮費を本学が全額負担するという他に例を見ない極めて充実した海外語学研修に格上げされた。この制度を受けて本年度は21名の学生諸君が8月にフライブルクへ向けて渡航した。

一昨年度より大きく変貌した短期集中語学講座だが、運営組織の改組に伴い長年国際局が運営してきた日本人コースも国際コースと同様、フライブルク大学の語学教育センターが統括することになった。中央講義棟内に参加者専用のサポートルームが用意され、主催者側とのコンタクト、また世界中の参加者同士の交流が図れるよう配慮されている。ドイツ滞在中に問題が発生した場合には昼夜を問わず現地

スタッフが対応するサポート体制は維持され、海外渡航未経験者でも安心して滞在できる様々な心遣いは従来通りである。

本学の参加者のために、特別プログラムを用意していただいているが、今年度もフライブルク大学医学部附属病院の院内薬局の見学会が実施された。ドイツ人スタッフの案内で、本学の参加者全員がドイツの医療現場を見学する機会を得た。



国際局サマーコース責任者 ティッシャー氏と

今回の日本人学生のためのサマープログラムに参加した2年次生の代表に「異文化体験」というテーマでドイツでの体験や思い出を投稿してもらった。ドイツでの語学研修や学生生活に興味を持つ諸君には是非とも次の夏休みにチャレンジし、来年度の異文化体験を報告してほしい。

教室での授業は午前中で終了、午後には連日楽しいレクリエーションプログラムが用意されている。このレクリエーションプログラムは午前中に習ったドイツ語を使ってみる絶好の機会だ。また週末には州内の都市、フランスやスイスへの日帰りバス旅行が予定されている。それにオプションとしてドイツで最も有名な観光地ノイシュヴァンシュタイン城へのバス旅行もある。車窓に広がる美しい南ドイツの風景はきっと旅人の心を魅了するだろう。受講料は580ユーロ、宿泊は学生寮で寮費が300ユーロ（2015年実績）は大学が支給だ。

なお2016年度からフライブルク大学で開催される短期集中語学講座は全て「フライブルク大学SLI（語学教育センター）夏季・冬季大学」と名称が変わるが、中身や運営方法は従来通りである。

後になったが、長年にわたり多くの参加者を派遣している本学に対して敬意を表すため、本年度の参加者と次年度以降参加を希望する学生諸君に向けてメッセージがフライブルク大学語学教育センターの夏季大学の責任者の2人から届けられたので、日本語訳とともに紹介したい。

【フライブルク大学 夏季大学責任者からのメッセージ】

～ドイツ語原文～

Liebe Studierende der Pharmazeutischen Universität Kyoto,

wir hoffen, es hat denen unter Ihnen, die wir 2015 in Freiburg begrüßen durften, bei uns gefallen. Seit über 100 Jahren kommen Studierende aus aller Welt nach Freiburg, um ihre Deutschkenntnisse zu verbessern und das Land und seine Kultur kennen zu lernen. Damit tragen sie zur offenen und jungen Atmosphäre der charmanten Universitätsstadt am Rand des Schwarzwalds bei, die eine der schönsten Städte Deutschlands ist.

Wir freuen uns sehr darauf, auch 2016 die Studierenden der Pharmazeutischen Universität Kyoto in Freiburg willkommen zu heißen.

Herzliche Grüße nach Kyoto senden

Astrid Nothen und Dorothea Rösch
Leiterinnen der Sommer-Universität im August

～日本語訳～

京都薬科大学に学ぶ皆様へ

2015年フライブルクにてご挨拶申し上げました皆さんには、わがフライブルクの町がお気に召したことだろうと願っています。今から100年以上も前の昔から世界各地より学生の皆さんがフライブルクに集まり、ドイツ語の知識の向上やドイツやその文化を学ぼうと努めてまいりました。この方々のおかげでシュヴァルツヴァルト（「黒い森」の意味）の端に位置し、ドイツで最も美しい町のひとつに数えられるこの魅力あふれる大学町はいつも開放的、若々しい雰囲気を醸し出し続けています。

私たちは2016年も京都薬科大学の皆さんをフライブルクにて歓迎できますことをとても楽しみにいたしております。

京都へ向けて心よりご挨拶をお届け申し上げます。

アストリート・ノーテンならびにドロテア・レッシュ



本学図書館前にて
左からノーテン女史、筆者、
ティッシャー氏、レッシュ女史

■ 国際交流推進室 北田 彩

今回初めて事務職員がフライブルクに派遣されたということで、大学周辺の環境や授業の雰囲気等を実際に見て確認することができ、次年度以降このサマープログラムに参加する学生に対して事前に提供できる情報を多く得られたことが今回の出張の成果かと思えます。

授業はレベル別にクラス分けされており、私が参加した初級レベルのクラスは日本人学生のみで、学生にたくさん話させる形式の授業でした。学生も楽しみながら積極的に参加しており、クラスの雰囲気はとても良かったように思います。また、上級レベルのクラスになると日本人以外の学生も多数おり、より国際的な雰囲気の中でドイツ語を学ぶことができると参加した学生から伺いました。

学生は授業やフライブルク大学が企画するアクティビティに参加する以外にも、週末にドイツ国内外へ旅行に行く計画を一から自分たちで立てる等、何でも積極的にチャレンジする姿勢が見られ、とても感心させられました。

一方で、外国人ルームメイトとのコミュニケーションに苦労していると話していた学生もいましたが、こういった経験は海外留学に行ったからこそできたことであり、この悩み、考えた経験は将来ファーマシスト・サイエンティストとして世界で活

躍するための大きな力になるのではないかと思います。

このプログラムに参加した学生たちには、今回の留学で経験したことを糧に、今後の大学での学びや研究活動をより一層充実したものにしていくことを期待しています。



フライブルク大学校舎



大学病院薬局内を見学

■ 2年次生 大塚 彩加

この夏、私は消極的な自分を卒業したい、視野を広げたいという思いから、フライブルク大学に短期留学させて頂きました。ドイツ語の授業だけでなく、薬局見学やベルリンへの旅を通して、得られたものがたくさんありました。

ドイツ語の授業は、全てドイツ語で行われ、初めは授業についていくのが大変でしたが、徐々にドイツ語を聞き取り、話すことができ、ルームメイトとの会話が新鮮でした。

薬局見学では、子供の患者のために薬の飲みやすさまで考え、工夫していることを知り、驚きました。日本よりも設備が充実していて、かつ、ドイツ

の薬剤師の方の話を聞き、刺激を受けました。専門的なドイツ語を理解して、ドイツの薬剤師の方と直接ディスカッションしてみたいと感じました。

さらに、授業のない午後や週末には、ドイツのいろんなところに出かけました。特に印象に残ったのは、週末に友達と夜行バスで行ったベルリンです。異国の地で自分たちだけで行動でき、そしてドイツの歴史や文化を実際に目にすることができ、とても感激でした。

ドイツで過ごした日々は、私にとって宝物です。この経験をこれからの大学生活に生かし、また、英語だけでなく、ドイツ語にも力を入れたいです。留学に携わって下さった全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



ベルリンのブランデンブルク門



フライブルクの大聖堂広場

■ 2年次生 黒澤 まどか

この留学の魅力の1つはドイツ語の授業だと思いません。授業中、先生はドイツ語しか話しません。生徒が理解できなかつたら、ジェスチャーや絵を駆使して丁寧に説明してくれます。また、日本では言語を学ぶ時文法から始まる事が多いのですが、簡単な日常会話の「音」から授業が始まりました。実際にフライブルクの街に出て道を尋ねたり、市場で買い物をしたりしました。日本ではこういう授業はなかなか受ける事がないのでとても新鮮でした。「音」中心のドイツ語の授業のおかげでドイツ語を「音」から理解し、聞き取り能力が上がったと思います。



マルティン門

もう1つの魅力は自由行動の多さだと思います。授業が昼で終わるのでフライブルクの街を観光したり、湖に行ったり、休日は国内のノイシュヴァンシュタイン城、フランスのアルザス、スイスのバーゼルといった観光名所に行くことができました。フライブルクの街の観光では博物館や美術館に行ったり、街の中心であるミュンスター聖堂に登って街の景色を眺めたり、アイスやフライブルクのソーセージを食べたり、自由に行動できました。

このドイツ留学は楽しくドイツ語を学べ、その上旅行気分も味わえ、素晴らしい体験をさせてくれたと思います。



おなじみのドイツの焼きソーセージ

■ 2年次生 久本 真琴

ある2つの目標を心に留めながら、1ヶ月間のフライブルク大学のサマープログラムに参加して、ドイツで私が得たものは、日本でも必ず役立つ広い視野と自信でした。

私が意識していた1つ目の目標は、とにかくドイツ語を使うことです。フライブルク大学での授業は、日本で学んだことの復習と、日常会話をリスニングとスピーキングを繰り返し練習して習得することが中心でした。そのため、その日覚えたことを、その日のうちに街のお店や駅ですぐに使うことができます。どんなに小さい街でもほぼ必ず教会か時計台があることや、山肌のあちこちにワイン用のぶどう畑があること、かわいいお土産屋さんの場所など、覚えたてのドイツ語で尋ねてみると、バスで相席した人やルームメイトが簡単なドイツ語に英語も織り交ぜて教えてくれたことがたくさんありました。

そしてもう1つは、景色を目に焼き付けること。空と平野が地平線でスパンと境界線が引かれている風



ノイシュヴァンシュタイン城にて

景は、日本ではあまり見られないと感じました。街中が見える丘から望むフライブルク、一人旅で訪れたローテンブルク旧市街、寮の裏にある湖とその高台から見た夕焼け、ノイシュヴァンシュタイン城からの眺望。色も背丈も同じ屋根や、平野の中に点々と置かれた街、絵本のようなパステルカラーの家に、何よりも日本と段違いに広いスケール。まるで非日常の世界を歩いているような気分と、その中で1ヶ月も暮らしているという事実を、最も実感させられました。

この2点を意識しながら過ごしてみると、見て聞いて吸収したいことや胸に刻みたいことがたくさん見つけられて、驚くほどの達成感と充実感を日本に持ち帰ることができました。この夏の感動をバネに、日本でさらに成長した姿で再度ドイツを訪れることが、次の私の目標です。



丘からのフライブルク